

血液検査

血液検査には(1)血球成分の検査と(2)出血・凝固・線溶系の検査があります。

(1) 血球成分の検査

〔血球算定〕

抗凝固剤(血液を固まらないようにする薬)入りの採血管で採血し、血球計数器にかけ、以下の項目を測定します。

白血球数・・・病原微生物に対して体を防御する細胞で、炎症性疾患の診断や経過観察をします。また、白血病やリンパ腫などの血液疾患の診断にも重要です。

赤血球数・・・体の細胞に酸素を運ぶ役割や二酸化炭素を肺へ運ぶ役割をしていて、貧血や多血症などの診断や経過観察をするための検査です。

ヘモグロビン量・・・酸素を運ぶ中心的な役割をしていて、貧血や多血症などの診断や経過観察をするための検査です。

ヘマトクリット値・・・血液全体に占める赤血球の比率を%であらわしたもので、貧血や多血症などの診断や経過観察をするための検査です。

血小板数・・・出血したときに、血栓を作って血液を止める働きをします。出血傾向や血栓症の診断のための検査です。

略称	項目	基準値	単位
WBC	白血球数	40 ~ 85	$\times 10^2 / \mu l$
RBC	赤血球数	男 400 ~ 520 女 350 ~ 490	$\times 10^4 / \mu l$
HGB	ヘモグロビン量	男 13.5 ~ 18.0 女 11.5 ~ 16.0	g / dl
HCT	ヘマトクリット値	男 36.0 ~ 48.0 女 34.0 ~ 43.0	%
PLT	血小板数	15.0 ~ 35.0	$\times 10^4 / \mu l$

〔血液像〕

白血球の分類や各血球成分の形態変化の観察、及び異常な細胞の有無などを検査します。

略称	項目	基準値	単位
Baso	好塩基球	0～3	%
Eosino	好酸球	1～5	%
Neut	好中球	45～73	%
Lympho	リンパ球	25～45	%
Mono	単球	3～10	%

〔骨髄検査〕

骨の中心部は骨髄と呼ばれており、そこでは白血球、赤血球、血小板になる親の細胞が毎日造られています。これらが細胞分裂を繰り返して血管の中に流れていき、白血球、赤血球、血小板となります。そして、細胞分裂の途中で障害が起こると貧血や白血病などになります。この骨髄で造られている細胞に異常が無いかを調べる検査です。

(2) 出血・凝固・線溶系の検査

〔出血時間〕

血小板の出血を止める機能を調べるための検査です。耳たぶに少しだけ傷をつけて、出てきた血液の止まる時間を調べます。

略称	項目	基準値	単位
	出血時間	～5	分

〔凝固検査〕

血小板のほかに、出血を止める役割をするものとして、凝固因子というものがあります。

これは、血漿に試薬を加えて固まるまでの時間を専用機器によって測定します。

略称	項目	基準値	単位
PT 秒	プロトロンビン時間	～14.0	秒
PT%		70	%
PT-INR		～1.20	
APTT	活性化部分トロンボプラスチン時間	40	秒
FIB	フィブリノゲン	150～450	mg/dl
TT	トロンボテスト	70	
HPT	ヘパプラスチンテスト	70	

〔線溶検査〕

出血を止めた後に出来た血塊は、血管の中にそのまま残っていると血流を悪くさせます。

そのため、血塊を溶かす働きをするものが線溶系因子です。これも専用機器で測定します。

略称	項目	基準値	単位
AT	アンチトロンビン	83	%
FDP	フィブリノゲン・フィブリン 分解産物	<5.0	μg/ml
Dダイマー	Dダイマー	<0.5	μg/ml

* 基準値は検査法と施設によって異なりますので、ひとつの目安として見てください。